令和4年度　経営発達支援事業　事業評価報告書に関する事業評価委員からの質問等への回答

（敬称略）

頁	項　目	委員名	内　容	回　答
2	1．地域の経済動向調査に関すること	皆川	小規模事業者等が事業計画策定等で効果的に調査レポートを活用できるよう、活用サポートや必要に応じて内容見直しも期待したい。	小規模事業者に大きな視点で、景気の現状把握してもらうために、町内、中播磨、県内の景気動向を取りまとめ、ホームページで周知している。事業所の事業計画策定を支援する際には、各職員が業種毎のトレンドや市場動向調査を行っている。ご指摘のとおり支援時に、より活用しやすいものを作成するように支援会議等で検討する。
		辰巳	情報提供によって具体的な成果につながった事例紹介があればなおよい。	上記に記載のとおり、活用はしているが、具体的な成果としては把握できていない。事業計画策定の基礎資料として積極的に活用に努め、具体的な成果につながる事例紹介ができるように努める。
3	2．経営状況の分析に関すること	辰巳	セミナー定員 20 名に対し参加者 24 名なのは延べカウント？	2 日間セミナーを実施し、2 日とも出席された方も 1 名、1 日だけの参加者も 1 名としてカウントしたため。
5	3．事業計画策定支援に関すること	皆川	セミナー受講者の事業計画策定件数が昨年度実績と比べて大きく減少している点は気になる。	【事業計画策定セミナー】 セミナー受講後、すぐに事業計画策定には結びついていないが、事業計画策定の意義や、補助金等の活用方法を習得していただいた。今後、事業計画策定を検討される方があるため、引き続きフォローを行う。 【事業承継セミナー】（大きな差はこれ） R3年度は、セミナーを2日間開催し、受講中に経営計画を講師と策定する内容であった。これに対して、令和4年度のセミナーは 1 日での開催で、事業承継の枠組みや中小企業者の承継状況についての説明にフォーカスしたため、セミナー後に支援する体制は整えていたものの、計画策定数については大幅に減少した。
		成田	R3年度実績に比べて受講者数が減っています。課題です。	【事業承継セミナー】 R3 年度のテーマは「事業を支える女性の終活セミナー」で、女性に絞った募集を行い、事業主体も女性部であった。女性部は定年がなく、R3 年度において過半数が 60 歳以上であり、非常に関心が高いテーマで参加者が多かった。R4 年度は、後継者への事業承継の意識を高める目的で、青年部を主体にして開催した。しかし、事業承継に対する意識の浸透や周知が行き届いていないためか、受講者数については苦戦を強いられた。 事業承継セミナーについては、テーマと対象を検討し、また、町内の金融機関とも連携して開催したい。 【創業セミナー】 R3 年度については女性に絞った募集を行っており、多くの申込をいただいたが、R4 年度については対象を絞らず募集を行ったため、R3 年度に比べて少なくなっている。女性に絞った募集を行った年度については応募が多くなる傾向にあるが、毎年実施すると男性の創業者を発掘しづらくなるため、R4 年度は対象を絞っていない。R5 年度については『福崎町創業支援補助金』が創設されたことを受け、ハードルを上げよりレベルの高いセミナーを計画しているため、参加者数はさらに減少する見込みだが、その分、質の高い支援を実施する。
		辰巳	前項の経営分析セミナーと本項の事業計画策定セミナーが同一とのことだが、開催数が前者 2 回、後者 1 回の区分が不明。	3 頁の経営分析セミナーの開催回数の修正を行った。
6	4．事業計画策定後の実施支援に関すること	成田	R3年度実績に比べて事業者数が大幅に減っています。理由は。	事業計画を策定した後、小規模事業者持続化補助金、ものづくり補助金、事業再構築補助金等を申請する事業者が多い。R3 年度実績については、R2 年度に持続化補助金が【一般型】に加えて【コロナ特別型】が新設され、福崎町においても多くの

				事業者が申請、採択され、その事業実施の伴走支援したこと、また R3 年度には事業再構築補助金が新設され、多くの事業者が申請し、採択後の交付申請等から事業実施の支援が主なものであった。 R3 年度は持続化補助金の申請・採択件数が R2 年度に比べて少なかったこと、事業再構築補助金も申請・採択件数が減少したことが R3 年度実績に比べて事業者数が大幅に減った要因となった。
		辰巳	3 年度に比べて低下した理由や、115 回の内訳（訪問頻度の計画対比等）にも言及してほしい。	3 年度に比べて低下した理由は、上記のとおり。 訪問頻度は、個々の事業者の事業内容に合わせて担当職員が計画し、実施している。事業実施、実施後の報告書作成支援が主なものである。J グランツ（電子申請・報告）がスタートしてからは、J グランツ操作についても支援している。今回は、事務局内での検討時間がなかったため、追加表記はできなかったが、次回以降は表記することを検討する。
7	5. 需要動向調査に関すること	辰巳	アンケート調査数や回収数、成果も一覧表として参考表記すればよくやっている感がより可視化されるのではないか。	今回は、事務局内での検討時間がなかったため、追加表記はできなかったが、次回以降は、その表記内容や方法等を可視化できるように検討する。
8	6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	皆川	次年度での目標達成に向けた更なる支援の工夫を期待したい。	「国際フロンティア産業メッセ」のような総合展示会ではなく、兵庫県商工会連合会の主導により出展をした「FOOD STYLE Kansai2023」のように、商品・製品カテゴリーや業種に特化した展示会への出展支援を行い、より成果が出せるようにしていくとともに「FOOD STYLE Kansai2024」でもより成果が出るよう商品力強化のセミナー等も実施する。
		成田	R3年度と比較して減となっています。令和5年度は、ウイズコロナとして動いてください。	前述のように、出展する展示会をよく検討すること、また展示会出展に向け、商品やパッケージ、キャッチコピー等のブラッシュアップ（ブランディング）等を、セミナーや専門家派遣で支援し、より成果につなげるように努力する。
9	1. 福崎町、地域の金融機関、工業団地に進出する企業と連携して、「福崎町中小商業者応援券」（プレミアム付商品券）の継続的な発行	辰巳	利用実績（業種別、地域別等）の分析結果があれば、意見や提案が集まりやすいのではないか。	商業部会の幹事会において利用実績（業種別、地域別等）を報告し、翌年度の事業実施の改善に努める。
	2. 福崎町、観光協会等と連携した福崎町特産の「もちむぎ麺」の販路拡大、民俗学の父「柳田國男」を活用した観光産業への支援	辰巳	記載店の売上拡大につながった検証があればなおよい。	「福崎もちむぎショップガイド」掲載店について配布後に、知らなかったお客様が多く来客され一時的だが商品の注文が急増した、と喜んでいただいたお店がある。また、役場も連携して「もちむぎ商品取扱い店」の幟を作成され掲載店に配布。相乗効果もあり売上拡大に貢献している。
14	1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること ③地域金融機関との連携	辰巳	経営支援の分野での連携実績がもう1例ほどほしい。	今年度申請予定の経営発達支援計画において令和 6 年度からは但陽信用金庫と連携し、事業分析セミナーを実施することで協議済み。 また、事業承継セミナーについても公庫・金融機関と連携して開催予定である。
14	④株式会社日本政策金融公庫姫路支店との連携	辰巳	来年度は事業承継マッチング等での連携成果を期待したい。	前述のとおり、公庫と連携して事業承継セミナー開催予定である。 また、事業承継・引継ぎ支援センターだけでなく、日本公庫のマッチング支援もアナウンスし、連携の促進を行う。
17	2. 経営指導員等の資質向上等に関すること ①兵庫県商工会連合会等が主催する研修	辰巳	受講計画や受講対象者の選定に関する仕組みに言及があればなおよい。	県連主催の研修会は、商工会職員研修事業計画に基づき、必須受講対象研修が決められているため、それに基づき年度当初に受講計画を定めている。
18	③創業支援に必要な機関の研修を受講し、支援力の向上に努める。	辰巳	特に船田氏を対象にした理由記載があればなおよい。	事務分掌により、創業支援の担当者だったため。